C.COM 広島の生協
平和とより良き生活のために
JUL.2018
VOL.68
広島県生活協同組合連合会
発行　2018 年 7 月 15 日

清涼

特集１：会員生協の挑戦

福山市立大学生協 …… １－４
「充実の学生生活」
特報：2018 通常総会 …… ５・６
第１回トップセミナー「SDGs」
特集２：「平和活動」…… ７・８
・2018 平和活動キックオフ集会
・ヒバクシャ国際署名 街頭署名活動
・「特別寄稿」自然豊かで心温かい
人々が住む沖縄 慰霊の日
（広島県生協連 高田公喜専務理事）
トピックス …… ９
・熊本震災支援活動（生協ひろしま）
・けんこうチャレンジ 2018
事務局だより …… 10
・広島県情報コーナー
・消費者ネット広島情報
・組織平和委員会報告　福祉・介護委員会報告
MESSAGE …… 11
原爆の絵に取り組むこと
広島市立基町高等学校 橋本一貫教諭
・編集室から

【表紙写真】
梅雨前で水量を増す伊豆修禅寺の『浄蓮の滝』。ほぼ垂直に滝壺に落下し、しぶきを上げる瀑布は、普通のシャッタースピードでは、水の動きを止めることができない。その止められない水しぶきが、幸運にも写真を絵画に仕立てた。葛飾北斎、レオナルド・ダ・ヴィンチの凄さを、あらためて想う。

特集

充実の学生生活

福山市立大学生協

福山市立大学キャンパス

日本の「大学生活」は、本当に豊かなのか…

昨今、「子どもの貧困」、「格差社会」という言葉をマスコミや報道でよく目にし、耳にする。こうした言葉を裏付けるように、子どもや大学生の食生活がマスコミで取り沙汰され、なかには、「社会問題化する奨学金」という、現在の大学生・大学卒業生がおかれた生活状況を象徴するような見出しまで眼につくようになっている。

本広報誌『C・COM』は、今日の大学生の生活に関連する「福山市立大学生協」と店舗設立の記事を65号・67号で2度掲載した。2回の記事は、福山市立大学生協設立のいきさつとその結果について紹介していたが、根本的な大学生協の役割、「どうして大学生協が必要なのか」、ということにまでに触れてはいなかった。

そこで、今68号では、福山市立大学生協の店舗と食堂を実際に訪れて、学内の雰囲気にふれ、新しくできた店舗・食堂を見ることによって、いま一度、大学生協のあり方と実態を紹介したい。（文責・Y）

福山市立大学校舎

福山市立大学生協の生みの親、設立に努力した教員と学生の皆さん

福山市立大学生協

昼休みの昼食時間、食堂ホールは、学生達で混み合う

必要なものを生協店舗で購入する学生たち

生活必需品が並べられた店内の棚

昼の食事時以外にも憩いや談笑の場として食堂ホールを利用

九州・沖縄フェアの商品メニューが食堂ホール入口に掲示！

食堂ホールの九州・沖縄フェアに合わせた商品が店舗にも

学生生活を豊かにし、食生活を満たす新しい空間

福山市立大学生協設立当時について語る正保正惠副学部長（生協理事長）

福山の玄関口ＪＲ福山駅から車で南へ約15分、福山市港町にある福山市立大学に着く。時刻は午後４時過ぎ、大学のほとんどの授業が終わる時間である。

大学のほぼ中央にある、この４月６日に新しくオープンした売店と広い食堂ホール（約４１０席）を訪れる。売店には、時おり学生が訪れ、必要なものを買い求めていく。店内は、限られたスペースではあるが、購買者が求める商品を効率よく陳列している。食堂ホール入口には、九州・沖縄フェアのメニューが、いやでも目につくように掲示されている。居心地の良さそうな広い食堂ホールでは、既に授業を終えた学生のグループが、所々テーブルを囲んで、語らいくつろいでいる。また、ぽつん、ぽつんと一人でテーブルに座り書籍を広げて、その場を自習の空間に利用している学生も何人かいる。

授業が終わったのか、各教室から、それぞれの学部の生徒が教室と食堂ホールを結ぶ通路にあふれる。２人、３人とグループになって語らいながら歩を進める様子は、学問の府である典型的な大学キャンパスの光景を現出している。

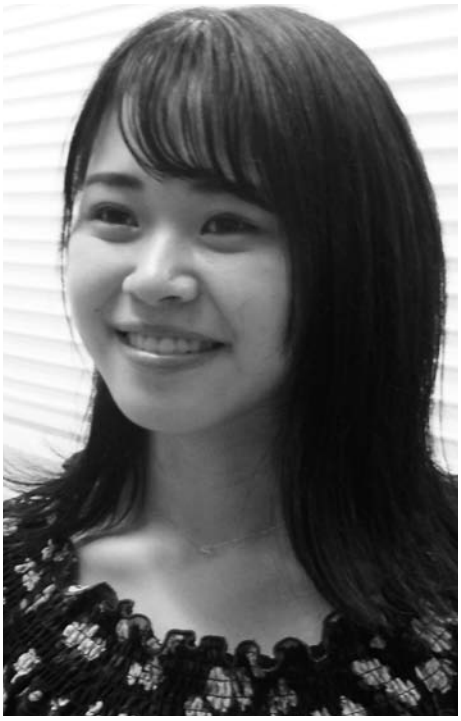
福山市立大学は、２０１１年４月、福山市港町に開学した、比較的新しい公立大学である。教育学部と都市経営学部を有し、約１，０００名の学生と約１００名の教職員で構成されている。

この大学では、大学には欠かせない売店と食堂が、開学当初から、民間業者によって運営されてきた。しかし、利用者の要望に応えることが難しかったのか、２度目の業者が、２０１７年７月に撤退してしまった。そこで、「大学生協」の設立の声が起こったのは、当然の帰結だった。

福山市立大学生協

オープニングセレモニー（左から２人目が正保正惠理事長）

福山市立大学生協設立総会　採決の様子


ホールで出会った幼児教育学科４年竹迫春香さん。よく利用するという

ショップのレジ風景（組合員証で電子マネー払いも可能）

店頭入口に貼られたオープン記念セールのお知らせ

生協・共済加入受付カウンターの様子

昼食時、出食レーンの様子

寄せられた祝電やお祝いのメッセージ！

「必要」なら自分たちで…

今日、大学の学生・院生・留学生・教職員の大学生活の充実に、大学生協を欠かすことはできない。

昨今の大学では、大学生協設立は、入学志望者を増やすための施策として、大学自らが主導し後押しをする場合が多いなかで、福山市立大学では、学生自ら「必要ならつくればいい…」と大学生協設立に立ち上がったのである。

まず、「自分たちが利用したくなるような食堂や売店を自分たちの手で！」と、学生有志が２０１５年に「生協設立準備会ＦＯＲＥＳＴ」という学内団体を結成した。ネットで「大学生協」を検索すると、「大学生協の４つの使命」『共同』、『協力』、『自立』、『参加』がまず書かれている。福山市立大学の学生有志は、まさにこの大学生協の４つの使命を、自らの手で計画し実行に移したのである。

有志達は、他大学の生協訪問、視察。岡山大学や広島大学、さらには奈良県立大学にまで，自己負担で出かけていった。そして、学生の生活実態やニーズを知るためにアンケート調査も実施。さらに、大学に提出するための設立要望署名集め、等々。その熱意は教員はもとより大学職員をも動かす力となり、２０１７年６月に「生協設立を目指す学内合意」を得るに到った。

その後も、学生達のパワーは衰えることなく、発起人の呼びかけに８７３名もの賛同署名を集めた。２０１７年12月８日には創立総会が開かれ、書面議決書を含めた６９９名の学生、教職員が参加、圧倒的多数の賛成によって全議案が可決承認された。そして、２０１８年１月には設立認可を得たのである。

２０１８年４月３日プレオープン。６日のオープニングセレモニーでは、田丸学長や保護者組織である教育振興会の渡辺会長から祝辞をいただき、詰めかけた大勢の学生や教職員が、心を一つにして福山大学生協の設立と、店舗・食堂ホールのオープンを祝った。そして、早速食堂ホールにおいて、思い思いに席を占め、開店記念メニューに舌鼓をうったのである。

福山市立大学生協

お昼の食事はもとより、広くて明るい食堂ホールは、まさに学生達の”憩いと語らいの場”

自分たちで生活を満たす

今年1月に設立認可を得た福山市立大学生協。引き続き4月6日は「店舗オープン」、「在籍する学生や教職員への加入の推進」、「入学する新入生への生協加入と学生総合共済や大学推奨パソコンの提案」といった3つを同時並行で進めるという、全国の大学生協のなかでも特別な新学期となった。しかし、これこそ大学生協が存在し，果たせる役割だとも言えるのである。

冒頭で、現在の大学生がおかれている経済的困難や食生活問題のことに触れたが、福山市立大学でもそうした状況の例外ではないのである。行き過ぎたグローバル化と自由競争の進展によって、格差が広がり、一見豊かには見える日本社会も、「格差」のひろがりによって、大学生の学生生活はもとより、卒業後の生活も非常に厳しい状況におかれているのだ。

福山市立大学の大学生協設立の経緯を見て、改めて「協同組合」というものを考えてみた。協同組合の定義・原則の冒頭に、～協同組合は、共同で所有し民主的に管理する事業体を通じ、共通の経済的・社会的・文化的ニーズと願いを満たすために自発的に手を結んだ人々の自治的な組織～とある。これまでの福山市立大学の大学生協設立の経緯を見ていると、同大学は、生協の存在を改めてクローズアップしその役割を再認識させたものであるとも考えられる。

益々厳しくなる大学生の生活と経済。これを守るには、自分で解決していく他にない。しかし、一人一人のちからには限界がある。それを解決するのは『協同』の力である、ということを福山市立大学の「有志たち」面々は、そのことを実践してのけたのである。

昼の喧噪の食事時間を終え、授業が終わる放課後の時間に、広い食堂ホールの学生達のふれあいの光景を見ていると、自分の生活を満たすのは、手をこまねくだけでなく、自ら率先して一人一人の「意思」と「ちから」を集めることだということを実感する。歓談するグループ、そして一人で学習する学生達の姿は、新しい学生生活の姿を現出している。（文責・Y）

2018 通常総会＆第１回トップセミナー

通常総会

総会議案は、挙手によって議決された

２０１８年広島県生協連合会「通常総会」と第１回「トップセミナー」が、去る６月20日（水）広島市中区のメルパルクで開かれました。

午後１時、定刻に始まった総会は、開会宣言にはじまって・資格審査報告・議長選出と紹介・書記任命が行われ、岡村信秀会長理事が開会の挨拶を述べました。

会長理事の挨拶の後、５名の来賓を代表して、森永智絵環境県民局長と広島県協同組合連絡協議会籾田清会長のお二人が祝辞を述べられました。

続いて、第１号・２号・３号議案の提案があり、高田公喜専務理事が、提案説明と監査報告を行いました。その後、活動方針を深めるための発言・質疑があり、議案は採決に入り、出席議員の挙手によって、３つの議案が採択されました。

最後に、新任役員紹介・退任役員への感謝状授与があり、書記解任、議長退任が済み、横山理事の挨拶で通常総会を締めくくりました。（文責・Ｙ）

来賓を代表して挨拶をする森永環境県民局長

来賓を代表して挨拶をする籾田 JA 中央会会長

総会に先立って議長に選出された
因島生協藤井理事

総会議案の説明をする高田専務理事
（下）総会会場

（下）新しく役員に任命された杉田、賀楽、檀浦、片岡各理事

通常総会会場の様子

開会の挨拶をする岡村会長理事

閉会の挨拶をする横山常務理事

退任された旧役員に感謝状が贈られました
上は、岡氏。下は近江氏

活動方針を深めるために発言する各氏。日立造船因島生協神野理事長（左上）、広島医療生協寺本理事（右上）、生協ひろしま岩永理事（左下）、中央保健生協藤井組織部課長（右下）

2018通常総会＆第1回トップセミナー

第1回トップセミナー『SDGs』

2018年度通常総会後、第1回トップセミナーが開かれました。

セミナーの演題は、『2030環境目標検討委員会報告～SDGs時代の生協の取り組み～』。講師の日本生協連合会 サステナビリティ推進部長板谷伸彦氏が、SDGsについて分かりやすく講演しました。

板谷氏は、まず、2015年の歴史的変化として、①SDGsとパリ協定が生まれた2015年は歴史的な年。環境や社会の問題について、生協への期待・要請が急速に強まった。②生協運動の先輩方はこれまでも各時代の要請に応えて生協の事業を革新してきた。③今日のサステナビリティへの要請に応えていく必要がある。という3つの項目を挙げ、この日の講演の主目的を紹介しました。

SDGsとは、Sastainable Development Goalsの頭文字をとったもので、2015年9月、国連が掲げた17の持続可能な開発目標です。協同組合は、その特質から、もてる役割発揮が期待されており、持続可能性の構築者となることを目指している、ということを板谷氏はまず印象付けました。特に、12月のパリ協定では、気候変動に関する長期目標、2020年度の気温上昇『2℃未満』という厳しさは、企業・組織への社会的役割が増し、事業革新の必要性が問われていることを説明。そのうえで、生協が社会からの期待・要請にどのように応えるか、また応えていくかを、①方法論「企業行動指針」②目標設定、③バックキャスティングの3つのステップで強調。

そのうえで、「気候変動問題への対応」、「SDGs時代の環境対応の検討」、と講演を進め、生協の強みを発揮するには何が必要かを問いかけました。そして、生協の起動点は組合員の「自分ごと意識」が重要であることを説明し、その必要性を促しました。

最後に板谷氏は、今後に向けての生協の役割は、「地域」、「協同」をキーワードに、3つのアプローチを想定し、環境事業推進部＆地域コミュニティ担当を総合化して取り組んでいくこととして講演を締めくくられました。

2018平和活動キックオフ　ヒバクシャ国際署名

2018「平和活動キックオフ集会」開催

広島県生協連は、5月25日、合人社ウェンディひと・まちプラザにおいて、2018「平和活動キックオフ集会」を開催し、広島平和文化センター、友誼団体、生協の組合員や役職員、約70名が参加した。

情勢報告では、広島平和文化センター岩崎静二常務理事より核兵器を取り巻く現状・リスク、NPT（核不拡散条約）再検討会議第2回準備委員会において、松井広島市長が世界各国の代表者と交流したことを報告。また、国連での各国政府への働きかけなどの平和首長会議の取り組み報告があり、2020年に向けてさらに活動を活発化させたいと決意表明した。

次に、ヒバクシャ国際署名広島県推進連絡会前田耕一郎事務局長（広島県被団協事務局長）が、連絡会発足と当生協連に事務局を依頼した経緯、今後の取り組みについて報告した。

続いて、岩永昌子組織平和委員より、ヒバクシャ国際署名の取り組みや2018市民平和行進の日程、2018ピースアクション.inヒロシマの概要報告があった。

引き続いて、昨年「みんなのひろば」に参加した広島県立福山工業高校が制作した細工町のVRの上映と、安田女子大学書道部より田中凛子さんから、虹のひろばでの大書パフォーマンス、県外出身の学生との平和交流について報告いただいた。

終わりに高田公喜専務理事が、「過去の原爆投下のつらい話が明るい未来へ繋がるよう、核兵器廃絶に向けて一緒に頑張りましょう。」と呼びかけ集会は閉会した。

（報告：広島県生協連 森畠哲司）

安田女子大学田中さん

広島平和文化センター岩崎常務理事

会場の様子

『ヒバクシャ国際署名』

街頭署名に取り組みました！署名数は41万筆を超えました！

5月21日、ヒバクシャ国際署名広島県推進連絡会が街頭署名に取り組みました。街頭署名には、25人が参加し、228筆が集まった。

このたびは、連絡会発足後初めての街頭署名活動ということで、新聞社5社、テレビ局4社の取材があり、また、広島平和記念公園内元安橋での街頭での呼びかけは、多くの外国の方達に積極的に署名参加していただいた。

広島県被団協の佐久間邦彦理事長は、「米朝首脳会談が予定される中、核廃絶の訴えを署名で表わすことが重要だ」と呼びかけ、広島県被団協（坪井理事長）の箕牧智之副理事長は、「核兵器廃絶は世界の流れ」と強調していたのが印象的だった。

署名に協力いただいた外国の方から、「人間の過去の過ちを学ぶために広島に来た。核兵器がなければもっと安全な世界になるはずだ」との声が。また、署名に協力いただいた被爆者の方からは「母が、かばってくれたおかげで助かった。同じような体験を誰にも二度としてほしくない」という声があった。

こうした皆さんの努力で、広島県内で集まった署名数は、5月末現在、41万筆を超えた。

「報告：広島県生協連（ヒバクシャ国際署名広島県推進連絡会事務局）森畠哲司」

街頭署名の様子

横断幕を持って呼びかけました

平和活動「特別寄稿」

自然豊かで心温かい人々が住む沖縄 慰霊の日

特別寄稿

広島県生協連合会専務理事　高田公喜

サトウキビ畑のなかを73年前を思い…

参加した皆さんと（左から2人目が高田専務）

例年、沖縄地方は、6月23日前後に梅雨明けする。私たちが6月22日に現地入りした時には、すでに気温は30℃を越え、亜熱帯特有の湿度が絡んで、いまの旬な言い方で言うと、じめじめ感は「半端なかった」。

「慰霊の日」の6月23日、沖縄県では、県民の追悼が各所で開催される。糸満市の平和祈念公園では、安倍首相が参加した追悼式があった。その時を同じくして、平和創造の森公園では、沖縄の生協主催で「ファミリーピースウォーク」が開催され、われわれも参加した。今年は、取り組み25年の節目の年ということで全国に呼び掛け、日本全土から8生協・連合会19名が参加した。大会への全体の参加者は、地元参加を含めて総勢約300名にもなった。

73年前、「鉄の暴風」と称される爆弾と砲撃により、豊かな自然の沖縄は焦土と化した。沖縄の地上では、動くものは撃たれ、火炎放射器で焼き尽くされた。その地上戦で消滅された緑を取り戻すため、米軍は、食糧にすることができない雑草の種を空から散布したと聞いた。

沖縄の生協が企画した「ファミリーピースウォーク」に毎年参加している吉川善智さん（74歳）から話を聞くことができた。

吉川さんの父親は、当時捕虜としてハワイの捕虜収容所に収容され、吉川さんはお母さんとお姉さんと3人で宜野湾市に暮らしていた。「母は、米軍の上陸作戦が始まると私を抱き、姉の手を引きながら命からがら沖縄北部に逃げました。私が一歳の時でした。母が北に逃げたから家族は生き延びることができた」と吉川さんは話されていた。北に逃れても、雑草を食べつくすほどの食料難が続いたという。

吉川さんは毎年、慰霊の日のこの生協の取り組みに宜野湾市から奥さまと参加されている。

一方で、那覇市から南部方面に逃げた家族は、実に4割以上が一家を惨殺されている。「ひめゆり」や「ずゐせん」の慰霊塔がある沖縄南部では、「最後の一名になるまで戦え」という命令が出され、解散命令が出たあとも100名以上が亡くなっている。

ウォーク後の集会の様子

2018年6月23日。今年も暑い一日であった。

わずか2時間だが歩くとフラフラになる暑さであった。

73年前の4月1日、米軍による沖縄本土侵攻が開始された。それから6月20日までの長き日は砲弾の炸裂音の絶えることのない日々であり、想像を絶するものがある。

当時、ひめゆり学徒隊のように「護郷隊」という少年兵部隊が組織され山に潜み約1000名の少年兵がゲリラ戦を展開したという。13歳から15歳の少年兵たちは、「日本を守れ」と教育され、上官からは「貴様らの命は鳥より軽い」と味方の言葉でも追い詰められていったのだ。

つい最近まで家族にも話せないきつい訓練と教育を受けた元少年兵の皆さんが少しずつ当時の様子を語り始めている。当時日本は、17歳以上が兵士となっていたが、その法令を変えて14歳以上で自らの意志で参加する法律に変えられた。

沖縄の皆さんは、若い人も「本土」という言葉をよく使う。

今も基地問題は、沖縄の人々にとって「譲ることができない」ものである。

現在、美しく豊かな自然を取り戻しつつある沖縄は、過去を忘れずその豊かな自然を生かした観光立県として人気が高い。その沖縄の土を踏んだ訪問者として、いつまでもそうした沖縄であってほしい、と願う。

戦争の愚かさと哀しみを知り「命（ぬちー）どぅ宝（たから）」の心で共に未来を担いたい。沖縄の皆さん　ありがとう＝「えふぇーでーびる」

熊本震災支援活動・けんこうチャレンジ2018

「広島お好み焼き隊」が熊本に行ってきました

～熊本震災支援活動～　生協ひろしま

5月28日～31日、熊本震災支援のため、組合員ボランティア3人、職員3人の6名で、昨年に続き2回目の、被災地にお好み焼きを振る舞う「広島お好み焼き隊」の活動を行いました。事前に、オタフクソース（株）Wood Eggお好み焼き館で焼き方の研修を受けたメンバーたちは、仮設団地など3カ所で計150枚のお好み焼きを焼き、被災地のみなさんに食べていただきました。

5月29日（火）
場所：南阿蘇村役場駐車場

周辺に大小8カ所の仮設団地が401戸あります。最初は緊張気味のメンバーでしたが、徐々に手際もよくなり、食べられた方から「おいしかったよ」「広島からありがとう」の声に笑顔がこぼれました。

5月30日（水）
場所：益城町赤井仮設団地

生協くまもとのボランティアさんが毎月「こーぷ喫茶」を開催している所です。震災から2年経ち、支援活動が減っている中、この活動を大変喜んでくださいました。

5月30日（水）
場所：馬水東道仮設団地

56戸約100名の方がお住まいの仮設団地です。お好み焼きを焼いているところを興味津々に眺めながら、気さくに話しかけてくれる方たちに、お好み焼き隊のメンバーは元気をいただきました。

（報告：生協ひろしま広報担当）

フレイル予防に『けんこうチャレンジ』

『けんこうチャレンジ2018』がスタート！

参加者数1万人を目標に取り組みます！

広島県生協連では、毎年7月1日～10月31日まで『けんこうチャレンジ』を実施しています。『けんこうチャレンジ』とは、―楽しみながら気軽に健康づくりの習慣を身につけ生活習慣改善につなげていこう―というものです。

この取り組みは、JAグループ広島や生協ひろしまも共催するなど幅広い分野での取組みとなっています。そして、近年では、広島県とも共同で取り組むなど県内全体を巻き込んで健康づくり運動を推進できるようになりました。その結果、昨年度は広島県全体でなんと9,306人もが参加することとなり、今年度は全体で一万人を目標に取り組みます。

広島県医療生協では現在、小学校や幼稚園、地域の自治会等を訪問し取り組みの拡大をめざしています。小学校では低学年を中心にパンフレットを配布をしてくださる学校もあります。また、生協組合員の班やサークルでもパンフレットを配布しています。今年8月には、各生協や広島県の取り組みを交流する企画も計画しています。

事務局では、今後も広く広島県民に「けんこうチャレンジ」のことを知って頂き、取り組みを広げていくことをめざしていきます。

（けんこうチャレンジ2018事務局　広島医療生協）

広島県庁から　消費者ネット広島　理事会・委員会報告

広島県庁から……②

リニューアル第1弾・ひろしま県民だより夏号をチェック！

広島県の取組をわかりやすく紹介するため、年4回発行している「ひろしま県民だより」。7月1日に発行した夏号は、県民の皆さんにより身近に、より分かりやすく情報をお伝えするため、リニューアルしてお届けしています！

今回のメインテーマは話題の『働き方改革』。『働き方改革』という言葉は知っているけれど結局何のこと？　という声にお答えするとともに、県の取組をご紹介しています。また、2020年東京オリンピック競技大会に向けて4月から県内各地で合宿をしているメキシコ選手団に関する情報や、リニューアルした防災情報メールのことなどを掲載しています。

「ひろしま県民だより」は県内のコンビニやスーパー等に設置されている県政情報ラックで手に入れられるほか、県ホームページからもご覧いただけます。ぜひご覧ください。

●問合せ／広島県総務局広報課
☎082（513）2378

消費者ネット広島情報

消費者トラブルの手口を知ろう⑧

近年、振り込め詐欺やインターネットを悪用した詐欺などの被害が後を絶ちません。消費者トラブルは身近なところに存在しています。情報を知り、被害にあうことがないよう、また被害にあったときの対処法について、日頃から備えておきましょう。

不安をあおり契約させるリフォーム工事の点検商法
（2018年5月16日　独立行政法人国民生活センター　見守り新鮮情報第308号より）

【事　例】

「近くで屋根工事をしていたら、お宅の瓦が傷んでいるように見えたので点検したい」と業者が訪問してきた。点検した後、業者が撮影した瓦の映像を見せられ、「かなりひどい。このままでは雨漏りするかもしれない。すぐに工事をしたほうがいい」と言われた。迷っていると、「たまたま今日この地域に来ているので今でないと契約出来ない」とせかされ、約40万円の契約をしてしまった。不安になって、やめたいと連絡したが、「もうキャンセルは出来ない」と怒鳴られた。（70歳代　女性）

ひとこと助言

★住宅リフォーム工事等の勧誘が目的ということを告げず点検を持ち掛け、不安をあおって契約をせかすという「点検商法」のトラブルが後を絶ちません。家族や周囲の人も高齢者の様子に気を配りましょう。

★「点検させてほしい」と訪問してくる業者には応対しないようにしましょう。

★点検を依頼した場合でも、結果をうのみにしないで、冷静に受け止めることが大切です。別の専門家等に確認して、複数の見積りを取るなど、決してその場で契約しないようにしましょう。

★法定の契約書面を受け取ってから8日以内である等の場合はクーリング・オフを行うことが出来ます。

★困ったときは、お住まいの自治体の消費生活センター等にご相談ください。

（消費者ホットライン188）

（消費者ネット広島　宗山事務局長）

理事会・委員会報告

第2回組織平和委員会報告

■開催日　6月6日

□主な協議・報告事項

・2018平和活動キックオフ集会振り返り
・2018ピースアクションinヒロシマについて
・2018「戦争も核兵器もない平和な世界を」市民の集いについて
・ヒバクシャ国際署名の取組状況と今後の活動について
・けんこうチャレンジ2018について
・2018年度広島県生協連学習会・ワークショップについて
・平成29年度「意識調査」結果について

第1回福祉・介護委員会報告

■開催日　5月30日

□主な協議・報告事項

・各生協経営状況報告交流
・福祉介護委員会の2018年度計画の具体化について
・介護人材実態調査結果報告
・県北における生協間連携、地域ネットワーク活動報告

原爆の絵に取り組むこと

広島市立基町高等学校 教諭
橋本　一貫
はしもと　かずぬき

●プロフィール
1959年（昭和34年）　6月広島市に生まれる
1978年（昭和53年）　広島市立基町高等学校卒業
1982年（昭和57年）　大阪芸術大学卒業
広島市立牛田中学校赴任
1992年（平成4年）　広島市立船越中学校赴任
1999年（平成11年）　広島市立基町高等学校赴任
2015年（平成27年）　広島市教育長賞
2016年（平成28年）　文部科学大臣優秀教職員表彰受賞

被爆体験を継承していくために

「次世代と描く原爆の絵」の取り組みは、原爆被害の実相を後世に伝えていくとともに、被爆体験を継承していくため、平成16年度から広島平和記念資料館が取り組んでいる事業です。平成19年度に広島平和記念資料館からの制作の依頼があり、その年から11年間で40名の被爆証言者の方々から聞き取りを行い、延べ127名の生徒が134点（場面）の原爆の絵を制作してきました。

高校生が原爆の絵を制作することは、全く未知の光景を想像で描かなければならない事や、描く事によって起こる精神的なストレス等多くの課題が考えられました。しかし、被爆証言者の方から直接お話を聞き絵にしていくことは、美術を専門に学んでいる創造表現コースの生徒にとって、個々の平和への意識を具現化する取り組みとして、絶好の機会であると判断し制作依頼を引き受けました。取組みについては、最後までやり遂げる自信がある事と、証言者の方の思いに寄り添い描くことを条件に、希望者を募ります。生徒は被爆体験を聴き、想像を絶する光景をどう描くのか悩みながらも、資料を集め、証言者の方と何度も打ち合わせを行い、約1年かけて描きます。完成した作品は平和記念資料館に寄贈され、証言者が被爆体験の講話などで、状況説明や場面の説明などで用いられます。

被爆の記憶を多くの方に伝える

そもそも、被爆の惨状を絵に描く時、直接被爆された方やその惨状を目の当たりにした方々の描く原爆の絵ほど、真に迫り見る人の心をとらえる絵画はありません。高校生が原爆の絵を描く時、どんなに頑張ってもありのままの被爆の実相や、その時の被爆者の感情などとても表現できるものではないのです。高校生が原爆の絵を描く事の意義の一つは、完成した作品が被爆体験の証言の中で場面の説明に使用され当時の現状や被爆者の方の記憶を多くの方に知っていただけることです。更にもう一つの意義は、取り組む生徒たちが何もわからない中で被爆者の方と対峙し、その思いに寄り添い相手の気持ちを察しながら作品を仕上げていく活動を通して平和への意識が向上し、人に対する思いやりの心が育っていくことにあると考えています。

被爆証言者の気持ちに寄り添う

原爆の絵の制作に関わる生徒への負荷はかなり大きなものであり、時には辛くなったり暗い気持ちにもなったりしたことと思います。それだけの経験をしているからこそ、彼らの人生にとって特別な経験となり、後の人生においても少なからず影響を与えてゆくものであると思います。何より、この「原爆の絵」の制作は、生徒たちが証言者さんの気持ちに「寄り添う」ことではじめてできることであり、誰かのために、何かのために絵を描く、という、普段の制作とは全く違った動機によって絵を描くということ自体が新しい体験です。出来上がる作品は決して芸術的な意味を持つ作品ではありませんが、当時の状況が少しでも理解できる資料として活用されれば、制作した生徒にとってもこの上ない喜びにつながると信じています。

2017ピースアクションinヒロシマ虹のひろばにて

【編集室から】
6月23日は、沖縄県の『慰霊の日』である。例年この日、沖縄地方では、県民の追悼が各所で開催される。糸満市の平和祈念公園では、安倍首相が参加した追悼式典があり、その時を同じくして平和創造の森公園では、沖縄の生協主催「ファミリーピースウォーク」が開かれた▼大会に参加した広島県生協連高田専務理事の特別寄稿「沖縄慰霊の日」を読むと、改めて、沖縄戦の悲惨さと犠牲者の多さに心が打たれる。（米軍、日本軍、沖縄県民合わせて約20万人）特に、この沖縄戦では、20万人のうち9万4千人が非戦闘員の沖縄県民だったことを想うと、胸をかきむしられる思いがする▼また、慰霊の日の「沖縄全戦没者追悼式」で、沖縄県浦添市港川中学校3年相良倫子さんが朗読した「平和の詩」には、全身が総毛立った。「私は生きている」に始まった、長編の詩は、東シナ海に浮かぶ沖縄の自然の豊かさと人の心の優しさを、格調の高い言葉と声の響きで、聴く者の心奥深く迫ってきた。相良さんは、「私は何と美しい島に、生まれ育ったのだろう」と、いまのよろこびを述べ、この美しい故郷から、「一人一人が立ち上がってみんなで未来を歩んでいこう」と呼びかける。改めて、のほほんと生きていることを反省し、戦争の愚かさを考えさせられた。（Y）

平和とよりよき　生活をめざして
広島県生活協同組合連合会
〒730-0802　広島市中区本川町 2-6-11
第7ウエノヤビル 5F
TEL 082-532-1300 FAX 082-232-8100
E-mail : kenren.h@proof.ocn.ne.jp
URL : http://hiroshima.kenren-coop.jp